

2024. 3

埼玉民主フォーラム

「アルツハイマー病新薬」
「レカネマブ」「認知症治療」

埼玉県議会議員 小川ひさし県議会レポート

本会議後 小川ひさしに聴く! Vol.2

「県総合リハビリテーションセンターにおいて
認知症新薬『レカネマブ』を用いた認知症治療を！」の質問の趣旨は？

昨年、県総合リハビリテーションセンター（上尾市 以下、県リハセン）を視察し、市川忠センター長から現状の説明を受ける中で、県リハセンが認知症治療にとても力を入れて取り組まれていることを聞きました。認知症治療薬「レカネマブ」（以下、新薬レカネマブ）については、昨年9月に国内での製造と販売が承認され、患者や家族から大きな期待が寄せられています。ただし、この新薬を投与できる医療機関は国が示すガイドラインの基準に適した機関に限定するとされています。県リハセンにおいて新薬レカネマブを用いた治療が実施されれば、さいたま市北区民にとっても大きな安心につながると考えました。



市川センター長

県リハセンは、リハビリ専門の医療機関と思っていましたが、
認知症治療も行っているの？

はい、県リハセンでは、認知症の診療に習熟した認知症専門医を配置するとともに、「もの忘れ外来」を設けて認知症に関する診療や相談に取り組んでいます。

新薬レカネマブとは？

県リハセン 上尾市

厚生労働省ホームページによりますと「この薬の使用により、認知機能障害の悪化が有意に(18カ月で27.1%)抑制されたと報告されている」とのことで、治療薬の対象は、認知症を発症する前の軽度認知障害の方や、アルツハイマー病の発症後、早い段階の方と限定され、早期発見、早期治療が重要となります。



県総合リハビリテーションセンター(上尾市)で治療体制の整備を!

～令和5年12月12日 県議会本会議一般質問～



小川ひさし

県リハセンにおいて積極的に新薬レカネマブを用いた認知症治療に取り組むことを大野知事に提案しました。



大野知事の答弁は？

県内の若年性認知症患者は約2,200人と推定され、発症年齢はおおむね50歳代と、家庭や職場の中心として活躍されている年代であることから、若年性認知症の対応は極めて深刻な課題となっています。

県リハセンでは、認知症の診療に習熟した認知症専門医を配置するとともに、「もの忘れ外来」を設けて認知症に関する診療や相談に取り組んでおり、こうした診療実績や医療資源といった強みを活用し、若年性認知症の治療に力を入れて取り組むべきと考えております。

現在、国においては、保険適用や適正な使用に係るガイドラインが議論されており、県リハセンとしても、国の動向を注視しつつ、処方できる医師の養成や検査体制の整備などを進めております。

また、認知症治療薬の対象は、認知症を発症する前の軽度認知障害の方や、アルツハイマー病の発症後、早い段階の方と限定され、早期発見、早期治療が重要となります。



大野県知事



本会議録画はコチラ

お知らせ



詳しくはコチラ

県リハセンでは本年2月よりアルツハイマー病新薬「レカネマブ」の専門外来がスタートしました!

小川ひさし (立憲民主党埼玉第5区総支部幹事長) プロフィール



1964年 大阪市生まれ
1982年 近畿大学附属高校卒業後、西川きよしに師事。
(～4年6カ月間の内弟子修行)
1987年 参議院議員西川きよし秘書(私設)
1999年 西川きよし政策担当秘書

2011年 さいたま市議会議員選挙初当選
2015年 さいたま市議会議員選挙二期目当選
2019年 さいたま市議会議員選挙三期目当選
2020年 第15回マニフェスト大賞最優秀政策提言賞受賞
2023年 埼玉県議会議員選挙初当選

趣味：3人の孫たちと遊ぶこと

発行 埼玉民主フォーラムさいたま市北区支部 小川ひさし事務所
〒331-0813 さいたま市北区植竹町1-719-9-102 TEL 048-669-7270 FAX 048-669-7271

info@ogawa-hisashi.jp

小川ひさし

検索

https://ogawa-hisashi.jp/

